東京薬科大学新聞 No.148

THE TOKYO YAKKADAIGAKU SHIMBUN

7月号　第148号　©1988　東京薬科大学新聞会

発行所
東京薬科大学新聞会
責任者　嶋村　信孝

今号の内容

第一面‥‥学生大会あいかわらずの低調ぶりに声も出ず
実験動物棟の見学
第二面‥‥前執行委員会一年を振り返って
新校舎建設が遅れている理由
豊田バス増便問題

あいかわらずの低調ぶり
学生大会終わる

七月六日（水）昭和六十三年度前期定例学生大会が大講堂第一体育室（体育館）で行われた。大会では左表の議題について提案され討議がなされた。印象としては、学生にも学生大会の主催者側にも終始粗雑な大会であった。

まず開会がかなり遅れて体育館の前でかなり待たされた学生がいた。また、出席者数が一時、大会の成立（自治会規約により学生大会は全学生数の過半数の出席がなければ成立しない）に足りなくなるかというアクシデントがあった。確認の後、成立したが、数の確認がずさんであった。また、暑さのためか休憩前と後では人数がかなり違い（八四九人→四九九人）、減った分を委任状扱いとしなければ会が成立しなかったような状態だった。

討議でも雑な点が見られたのでいくつか以下に述べる。

一、出されてもいない緊急動議が議決される。

開会直後、自治委員会より緊急動議が出された。自治委員会から説明があったのは図書の充実化についてだけだった。しかし、この動議の議決後、議長が何の説明もないアスベスト問題についての議決をし、しかもそれが議題として承認されてしまった。

図書の充実化の方が議題として承認されるのはわかるが、アスベストについては配られた文書をみて学生が判断したのであろうか。

二、学生大会の途中で出席者の数を確認する。

前文でも述べたが、二号議案の討議後、承認をとる段階になって出席者の確認がなされた。「出席者数が過半数に達していないらしい」とのことであった。

承認・決議には正確な人数を必要とする。なのに人数の確認も済まないうちに議事が進行していたなら、これまでされたのだろうか。

三、一度決議・承認された事項がくつがえされる。

六号議案、駐車場問題で、一旦議案が承認されたが、なぜかその議案の一部とみられる「駐車場管理について特別委員会を組織したい」という項だけが別に議決にかけられ否決された。

一つ一つの決議・承認があまりにも軽んじられているようだ。それぞれの承認事項についても、何の承認なのか理解できないところが見受けられた。

四、何の為の学生大会なのか

最後に、今回決まった議決を大学側に提示する学内連絡会議に持っていくことについて議決をとった。

学生大会で承認・決議されたことが、全学生の意見として認められているはずである。もしこれが否決され会議に持っていかなければ、この学生大会の意味がなくなるのではないか。

他にも様々な問題があったが、今年も学生の無関心さが露であった。全部で十二の議案についてすべて討議されたが、学生からはほとんど質疑がなかった。それに終始騒がしく、議案書で紙飛行機を作って飛ばしたり、積極的に討議に参加しているとは言えない状態であった。また休憩時間をはさんで出席者が四割も減少するなど、学生の問題意識の低さが目立った。

主催者側の態度もあまり好ましいものではなかった。参加者が少ないと見込んだのか、討議に必要なプリントが不足したり、出席者の一部に行き渡っていなかった。また、議事を進行すべき壇上の役員の中に、学生大会に無関係なレポートを書いていた人がいたりして、学生の意識の低さをあおっているようだった。

（第二面に続く）

昭和６３年度
前期学生大会議題

１．所信表明

２．教務問題

３．部室棟増設について

４．教育３号棟について

５．交通問題（１）多摩バス問題

６．交通問題（２）駐車場問題

７．自治委員会

①財政について（教育充実資金募集に関して）
②図書館へのコンピューター導入について
③アスベストに関して

８．新聞会

９．東薬祭運営委員会

１０．体育祭実行委員会

１１．昭和６２年度決算報告

１２．昭和６３年度予算案

実験動物棟
見学レポート

実験動物棟は、昭和五十九年に完成した二階建てで、研究棟二号棟の二階のはずれに入り口がある。わたり廊下を通っていよいよ動物棟だ。入る前に薬用石けん水で手を消毒し、青の作業衣と帽子をかぶらされる。この作業衣は静電気が起きてほこりがつかないように、特殊加工されているそうだ。

この建物の中にはSPFマウス・ラット、コンベンショナルラット・マウス・モルモット・ウサギ等が飼育されている。そのなかのコンベラットの飼育室に入る。ラット独特の匂いが鼻につく。ケージが四段にずらりと並んでいる。ここで様々な動物実験がなされている教室名が書かれた名札がかかっている。二階はイヌ飼育室、手術室などがあり、イヌの運動スペースもあるが、このときイヌがいなかったので空のおりが並んでいるだけだった。

建物の中は思ったより狭く、コンパクトにまとめられていた。というのは、飼育室の中は、常に二十三℃±一℃、湿度は五十五％±五％に保たなければならないためだと思われた。このように、実験しやすいように特に考えられているようだが、上手に利用されていないように思われる。それは、動物棟の実験室よりもやはり研究室のほうが慣れているため動物を持ってって実験してしまうなどのことがあるようだ。せっかく動物棟を建てたのだからうまく使って頂きたいものである。

薬味

今年春、青函トンネルに続いて四月十日に、本州と四国とを結ぶ（夢のかけ橋）瀬戸大橋はそれまでの宇高連絡線に続いて、四国の人たちの期待と愛を乗せて開業した。◆道路と鉄道との併用橋としては世界最大の規模を誇る瀬戸大橋も、地元住民による騒音苦情（JR線のこと）によって列車の最高速度の減速などを要求された。◆そして、JR四国と地元住民との間で、緊張感の高まる中で話し合いがもたれたが、結局、JR四国が、地元住民の要求を大部分受け入れることで、JR四国としては今後に課題を残して話し合いは一応終わった。だが、この問題は今後も長引くことが予想される。◆しかし、このような問題があるにしても、瀬戸大橋に対する期待と役割は大きなものがある。早くも観光客の出足もJRの方では良好で関係者を驚かしている。一方、道路の方は、料金も高いということで、観光客の方もやや伸びがない。長距離トラックの運転手などに、時間は多少かかっても、料金の安さ（約千円弱の違い）と休めるということから、宇高をを結ぶフェリー人気もわずかではあるが残っている。◆以上、瀬戸大橋のことを挙げると、いくらでも出てくるがここで、瀬戸大橋について少し紹介します。全長約九・四キロ、十一の橋からなり、車窓からの眺めは瀬戸大橋でも見られないものがあります。一番長いのが南備讃瀬戸大橋で、日本では一位、世界では第六位の長大橋です。日にJRの特急・快速など数十本がはしっています。是非一度行ってみられることを勧めます。◆本四連絡橋としては、今後、明石―鳴門、尾道―今治ルートが計画されています。◆あと数日で夏休みに入りますが、どこを旅行するにしても、お互いマナーを守り、楽しい思い出の残る旅をしましょう。

自分たちの手でよりよい大学に

（第一面より続く）

学生の意見を集約する最高議決機関がこのような現状で、果たして学生の意見が大学側に反映するのだろうか。今一度、学生大会の在り方、やり方を見直し、学生の真の要求を引き出せるようにすると共に、学生もギリで参加するのではなく、大学を自分たちの手でより良くしていくための学生大会にするという意識が必要ではないか。

以下に承認あるいは議決された内容を簡単に挙げておく。

一号議案◆所信表明
学生からの意見があれば大学側と協議して行きたいという学生大会の方針

二号議案◆教務問題
①アンケートの実施　②レジメの配布　③専門科目の少人数化を学生の意見として、大学側に要求していき、大学からの明確な回答が得られなければ父母に訴える考えがあること。

三号議案◆部室棟問題
大学より「音楽部室増設を具体化の方向で討議したい」との回答が得られた。それを受けて音楽部関係者、執行委員会さらに一般学生を含めた中から委員を選出すること。

四号議案◆教育三号棟
①音楽系クラブの使用できる講義室　②学生教育用コンピューター室の設置を大学に要求していくこと。

五号議案◆交通問題Ⅰ多摩バス
①一時間に最低二本運行してほしいこと　②特に九時前に二本、一限の後に一本、十七時から十九時の間は十五分おきに運行して欲しいということを大学側に要求していくこと。

六号議案◆交通問題Ⅱ駐車場
大学側に違法駐車に対する処罰を強化するように要求すること。なお、駐車場管理について話し合う特別小委員会の設置については、否決された。

七号議案◆自治委員会
①膨大な黒字をかかえている大学の財政について大学に要求する。②図書館の貸出、返却の簡略化、図書の充実化、図書検索の自動化を大学側に要求していく。③体育館及び部室棟に、発癌性のアスベストが使用されている疑いが生じたため、これを調査していくということ。なお、これについては、体育部門長より体育館に関しては問題がないとの報告があった。

八号議案◆新聞会
今年度の方針について

九号議案◆東薬祭実行委員会
十号議案◆体育祭実行委員会
体育祭が十月二十一日（金）実施されるということ。

十一号議案◆六十二年度決算報告
監査委員会より、前執行委員会三役による使途不明コピー約二千枚二万六千円程度、紙の転売による利益約五万三千円を隠していたことが発覚したと報告された。この、前執行委員会三役の行為は、本来学生のためにある機関としてあるまじきことであるとして、監査委員会より五十万円の予算削減を提案し、予算委員会で決議された。

十二号議案◆六十三年度予算案
執行委員会から五十万円削減。特別施設費五十万円を設けたが、使い道に関しては予算委員会で考える。その他の予算案は当日配布されたプリントのとおり承認。

全体を通して◆以上の決定事項を、今月中に行われる予定の学内連絡会議に持っていくことに対して議決がなされた。

（注）重複された承認事項については、後者を優先しました。

学生大会の最後に執行委員長より学内連絡会議を開きたいという提案が出された。部室棟増設問題については特別小委員会を作るという意見が承認されたが、その他の問題については学生の意見を出す場所がないという現状から、この学内連絡会議には意見を持つ学生は是非参加して場で意見を述べてほしい。

執行委員長の発言
七月中に学内連絡会議（大学と学生の直接の話し合いの場）を開きたいと思います。この会議には学生の全体が出席して一つでも多くの意見を言っていただきたいので皆さんの出席をできるだけお願い致します。

執行委員会

一年を振り返って

前副執行委員長
早川　佳代子

任期を終えてみて一年間を振り返ってみると、今頃になってようやく仕事に慣れたのに、という感じです。二年生で執行をとって、学生の代表として仕事を行っていくことは、私にとってかなりの努力が必要でした。自分の仕事も完成せず、後輩への指導もしっかりと出来ずに引退していくのはとても心残りでなりません。まだまだ多くの問題をかかえているのに解決できぬまま、自分達の無力さを感じるばかりです。

東薬生のような苛酷なスケジュールをこなし、今、学生の間で大きな関心を抱いています。何かと無関心な今の世の中、みんなで力を合わせて一つのことをするという機会が少なくなってきていると思います。

みんなで力を合わせて

なぜ遅れている　新校舎建設

六月着工予定であった新校舎、教育三号棟の建築が、七月に入った今になっても始まっていない。語学が十クラスレポートに追われているような人達には、自分のことだけで精一杯で、他人のことなど考えてはいられない、というような人が多いのではないのでしょうか。そのような人達が、どうしたら関心を抱くのか、というようなことを考えるのも、上に立つ者の役目だと思います。

多くの学生の頂点に立って活動するということは、精神的にも肉体的にも、誰からも親しまれ、頼られるような人になってほしいと、次期の執行をとる人達に期待したいと思います。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

編成になるなどの教育効果の向上も折り込まれ、来年度から使用予定のこの校舎。なぜ着工が遅れているのか。

施設課で聞いたところ、着工が大幅に遅れている大きな原因は二つある。

まず一つは、建築許可がおりていないということ。建物を建てるには、市役所の建築課というところに申請を出して認められなければならない。その申請は既に提出したのだが、未だにその許可がおりないために着工できないそうだ。施設課では、認可が遅れている原因は、現在建築ブームで役所では他にも調べることが多いのでは、といっていた。

二つめは、最近になって周辺の住民が説明会を開くように要求してきたことである。建築が始まれば、音は出るし、資材を運ぶためにトラックなどが、周辺道路を何往復もしなければならない。そこでは工程表などが不可欠なため、申請がおりる前に開けない事情がある。

しかし、当初の予定より一ケ月も遅れた今からでは、来年度から使用できるか微妙である。工務店も大学も夏休み中に音の出る作業をしたいと考えているが、日程表を工務店に見せたところ、東薬は夏休みが短いと驚いていたという。また、試験期間中、薬祭期間中も難しいと。

施設課では、とにかく建物の姿が見えない段階では、どこもメドがたてられない。早く許可がおりないかハラハラしているが、一日でも早く着工したいという意向である。期間は押し迫ってしまったが、そのために不都合な点が生じることがないように、一日でも早くしっかりした校舎ができることを期待したい。

豊田バス　増便の見込みなし

現在、特に月曜日の朝、豊田バスに多くの乗りこぼしが見られるようです。朝九時一〇分に豊田に着いたとしても結局バスにのるのが九時三〇分になってしまうということがたびたびあります。

原因を施設課に問いあわせたところ、やはり豊田駅の利用者が、年々増加していることが原因の一つとして挙げられた。おそらく月曜日は、各学年とも必修の講義が重なっている為に乗りこぼしが生ずるのではないかと言われました。

対策としてバスの増便（特に月曜日だけでも）をしてくれないかと質問してみたところ、バスの運転手の組合がこれ以上の過剰勤務になるため、無理だとのことです。しかし十月になると、四年生の必修の講義が少なくなるので、今以上バスの乗りこぼしは減るのではないかとのことです。施設課としても前向きにバス問題のことを考えていくとのことです。

編集後記

○今回の新聞はかなりのハイペースでなかなか大変でした。（よーちゃん）

※夏休みは、バイトと合宿で、終わってしまうだろう。やってらんねーな夏休み。（麹）

土ひさしぶりに、大阪弁を聞きに、帰ります。夏に。（美人教師）

☆もうすぐ夏休み。信州松本に旅行にいくんだ。なんと、宿泊費がロハ！持つべきものは地方の大学に行った友だ。（薬子）

δこのハイペースでも、どうというわけか新聞が出てしまう。ここのところ、訳のわからんことや、変な事件ばっかで一週間前はひどく憤りを感じていたけど、このごろは、頭が全然働かなくて編集後記なんか書けません。九月からも一年生が来てくれればなにも言うことはないんだけど。（おばけ）

≠もういくつ寝ると夏真っ盛り、キリッと冷えたビールがうまい時期です。（アル中）

Φ夏がくる！プールがくる！湯豆腐のうまい季節だ！（僕の惑性は常人と違うんです）

千葉真一の映画も見よっと。（河童くん）

（注）新校舎、豊田バスの記事は七月五日（火）現在のものです。

自分たちの手でよりよい大学に

（第一面より続く）

学生の意見を集約する最高議決機関がこのような現状で、果たして学生の意見が大学側に反映するのだろうか。今一度、学生大会の在り方、やり方を見直し、学生の真の要求を引き出せるようにすると共に、学生もギリで参加するのではなく、大学を自分たちの手でより良くしていくための学生大会にするという意識が必要ではないか。

以下に承認あるいは議決された内容を簡単に挙げておく。

一号議案◆所信表明
学生からの意見があれば大学側と協議して行きたいという学生大会の方針

二号議案◆教務問題
①アンケートの実施　②レジメの配布　③専門科目の少人数化を学生の意見として、大学側に要求していき、大学からの明確な回答が得られなければ父母に訴える考えがあること。

三号議案◆部室棟問題
大学より「音楽部室増設を具体化の方向で討議したい」との回答が得られた。それを受けて音楽部関係者、執行委員会さらに一般学生を含めた中から委員を選出すること。

四号議案◆教育三号棟
①音楽系クラブの使用できる講義室　②学生教育用コンピューター室の設置を大学に要求していくこと。

五号議案◆交通問題Ⅰ多摩バス
①一時間に最低二本運行してほしいこと　②特に九時前に二本、一限の後に一本、十七時から十九時の間は十五分おきに運行して欲しいということを大学側に要求していくこと。

六号議案◆交通問題Ⅱ駐車場
大学側に違法駐車に対する処罰を強化するように要求すること。なお、駐車場管理について話し合う特別小委員会の設置については、否決された。

七号議案◆自治委員会
①膨大な黒字をかかえている大学の財政について大学に要求する。②図書館の貸出、返却の簡略化、図書の充実化、図書検索の自動化を大学側に要求していく。③体育館及び部室棟に、発癌性のアスベストが使用されている疑いが生じたため、これを調査していくということ。なお、これについては、体育部門長より体育館に関しては問題がないとの報告があった。

八号議案◆新聞会
今年度の方針について

九号議案◆東薬祭実行委員会
十号議案◆体育祭実行委員会
体育祭が十月二十一日（金）実施されるということ。

十一号議案◆六十二年度決算報告
監査委員会より、前執行委員会三役による使途不明コピー約二千枚二万六千円程度、紙の転売による利益約五万三千円を隠していたことが発覚したと報告された。この、前執行委員会三役の行為は、本来学生のためにある機関としてあるまじきことであるとして、監査委員会より五十万円の予算削減を提案し、予算委員会で決議された。

十二号議案◆六十三年度予算案
執行委員会から五十万円削減。特別施設費五十万円を設けたが、使い道に関しては予算委員会で考える。その他の予算案は当日配布されたプリントのとおり承認。

全体を通して◆以上の決定事項を、今月中に行われる予定の学内連絡会議に持っていくことに対して議決がなされた。

（注）重複された承認事項については、後者を優先しました。

学生大会の最後に執行委員長より学内連絡会議を開きたいという提案が出された。部室棟増設問題については特別小委員会を作るという意見が承認されたが、その他の問題については学生の意見を出す場所がないという現状から、この学内連絡会議には意見を持つ学生は是非参加して場で意見を述べてほしい。

執行委員長の発言
七月中に学内連絡会議（大学と学生の直接の話し合いの場）を開きたいと思います。この会議には学生の全体が出席して一つでも多くの意見を言っていただきたいので皆さんの出席をできるだけお願い致します。

豊田バス　増便の見込みなし

現在、特に月曜日の朝、豊田バスに多くの乗りこぼしが見られるようです。朝九時一〇分に豊田に着いたとしても結局バスにのるのが九時三〇分になってしまうということがたびたびあります。

原因を施設課に問いあわせたところ、やはり豊田駅の利用者が、年々増加していることが原因の一つとして挙げられた。おそらく月曜日は、各学年とも必修の講義が重なっている為に乗りこぼしが生ずるのではないかと言われました。

対策としてバスの増便（特に月曜日だけでも）をしてくれないかと質問してみたところ、バスの運転手の組合がこれ以上の過剰勤務になるため、無理だとのことです。しかし十月になると、四年生の必修の講義が少なくなるので、今以上バスの乗りこぼしは減るのではないかとのことです。施設課としても前向きにバス問題のことを考えていくとのことです。

編集後記

○今回の新聞はかなりのハイペースでなかなか大変でした。（よーちゃん）

※夏休みは、バイトと合宿で、終わってしまうだろう。やってらんねーな夏休み。（麹）

土ひさしぶりに、大阪弁を聞きに、帰ります。夏に。（美人教師）

☆もうすぐ夏休み。信州松本に旅行にいくんだ。なんと、宿泊費がロハ！持つべきものは地方の大学に行った友だ。（薬子）

δこのハイペースでも、どうというわけか新聞が出てしまう。ここのところ、訳のわからんことや、変な事件ばっかで一週間前はひどく憤りを感じていたけど、このごろは、頭が全然働かなくて編集後記なんか書けません。九月からも一年生が来てくれればなにも言うことはないんだけど。（おばけ）

≠もういくつ寝ると夏真っ盛り、キリッと冷えたビールがうまい時期です。（アル中）

Φ夏がくる！プールがくる！湯豆腐のうまい季節だ！（僕の惑性は常人と違うんです）

千葉真一の映画も見よっと。（河童くん）

（注）新校舎、豊田バスの記事は七月五日（火）現在のものです。

――コーヒーブレイク――「ローマの休日」

「ローマの休日」この映画は、題名ぐらいは誰しも一度は耳にしたことがあるでしょう。しかし、意外と観たことのある人は必ずしも多くないのではないでしょうか。

あらすじは、夏のローマ、とある国の王女アンが来訪中であった。彼女はまだ二十歳、タテマエばかりの日々にあきあきし、夜こっそり街にぬけ出す。そこで新聞記者ジョーと出会う。アンはその晩、ジョーの家に泊めて貰うが、翌朝、朝刊でジョーは、アンが王女であることに気付く。彼はそこで、彼女が街にぬけ出したことを特ダネにしようと、街のあちこちを案内し、親友のカメラマンにその姿を撮らせる。しかし、お互いの中に育っていた恋に気付くが、この恋に未来はない。やがて、王女は自分の世界へと戻っていく。というのである。ちなみにこの映画は、1953年発表で制作：監督：ウイリアム＝ワイラー、アン王女：オードリー＝ヘップバーン、ジョー：グレゴリー＝ペック、ら3年度アカデミー主演女優賞、原作賞、黒白衣装デザイン賞受賞。

一度、観てみる価値は絶対あると思います。必見！